

●環境省 Green Value Chain促進ネットワーク第2回会員交流イベント

「アパレル・ファッショング業界が臨む サステナブルな未来」

～脱炭素に向けたガイドラインと策定に至る経緯と
アパレル各社が、第一歩を踏み出すことができる進め方～

2025/11/25

● 一般社団法人日本アパレル・ファッショング産業協会
CSR委員会環境トレーサビリティWG
座長 枝村 正芳(株式会社 ワールド)

■協会について



HP: <https://www.jafic.org/>

●名称

一般社団法人 日本アパレル・ファッショング産業協会

→設立1979年 アパレル企業の業界団体

(正会員128社:賛助:131社:合計259社) 25年10月現在

●会員構成:アパレル、繊維商社、副資材メーカー様、(ボタン、下げ札、袋など)など

正会員:本会の目的に賛同して入会するアパレルの商品企画力を持ち、かつ生産・販売機能を有する法人

賛助会員:正会員に該当しないもので、本会の目的に賛同し、その事業に協力しようとするもの

●目的

我が国繊維産業の安定と繁栄に重要な役割を果たすことが期待されているアパレル産業の健全な発展を図り、もって国民の衣生活の向上に貢献することを目的としています。

●主な事業

- ・アパレルの生産、流通の合理化に関する調査研究
- ・アパレル産業に必要な情報の収集、整備並びに提供
- ・アパレル産業の国際交流及び国際化に関する事業
- ・アパレル産業の従事する者を対象にとする人材育成事業
- ・アパレル産業に係る行政庁等に対する建議又は答申
- ・アパレル産業に關係を有する各種団体との連絡協調
- その他、本会の目的を達成するため必要な事業



サステナブルへも取り組む

■アパレルとは 衣服の企画、製造、販売を行う企業(業界)

●繊維・アパレル業界

衣料品、
航空(カーボン)、自動車、建築、インテリア
医療、通信(光ファイバー)など
幅広い分野の製品を作る産業

●衣料品+衣料品以外の
身の回り品、靴、鞄、
アクセサリーなど
服飾雑貨

皮革衣料
製品など

幅広い分野で活躍する「繊維(業界)」

「●アパレル業界」

繊維以外

- ・アパレル製品は、
主に繊維でつくられている
- ・繊維産業は、多様で、
アパレル向けは、その一部

・繊維産業全体から見ると、
アパレルへの環境対策は、その一部。
→アパレル発のアクションも必要

●アパレル販売

百貨店、量販店、日本各地域の専門店(路面のお店など)、
大型ショッピングモール、ECなどが販路になっている
一部、海外での店舗展開をする

・多くが、国内販売

アパレルの供給量の推移、輸入浸透率

●アパレルの供給(生産)



繊維産業の現状と政策について

2024年9月
経済産業省
製造産業局 生活製品課

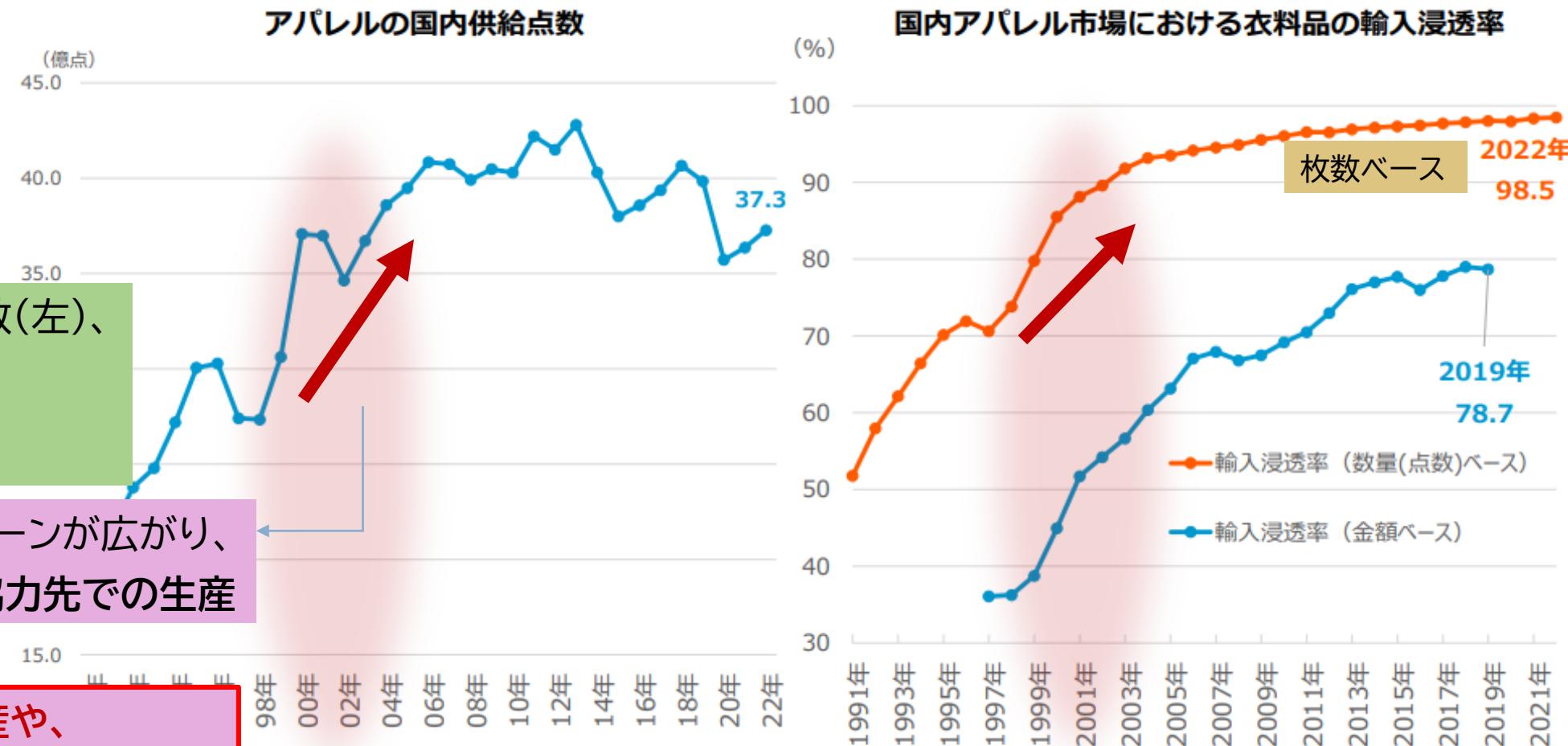
↑引用先

●アパレル国内供給点数(左)、
輸入点数(右上)
90年後半から高まり、
現在は、ほぼ輸入

●世界に、サプライチェーンが広がり、
多くが、委託、協力先での生産

●生地、縫製も委託生産や、
出来ているものを購入する
→直接的に作っていない

- 国内におけるアパレル供給点数は、1990年には約20億点だったが、2022年には1.8倍以上に増加。
- 2022年の輸入浸透率は数量ベースで98.5%であり、海外生産（輸入）の割合が高い。



出典：日本アパレル輸入組合「日本のアパレル 市場と輸入品概況」(1991-2023)。
注：国内生産量は一部製品について、従業者30名以上の企業
によるものである。

出典：日本アパレル輸入組合「日本のアパレル 市場と輸入品概況」(1992-2022)。

■アパレル・繊維業界への指摘事項あり！

●廃棄衣料が多い(売残り)



●作りすぎ(過剰供給)、使い捨て



※全部、売りたい、売れると思いを込め働いてます
これも、事実です

●環境負荷産業と指摘される

左記に加え
製造段階でもGHGを多く排出



ファッション産業が環境に与える影響

UN launches drive to highlight environmental cost of staying fashionable

「国連貿易開発会議（UNCTAD）では、ファッション業界が世界で第2位の汚染産業とみなされています。」
※一次資料未確認



●しっかり、業界としての対応をする必要がある

(参考資料)

●言葉の整理:アパレル≠ファストファッショ

- ・アパレルは、
衣服や関連商品全般を扱う業種。高いモノも安価なものもあります
- ・ファストファッショは、
特定のビジネスモデルを指す
流行(トレンド)を反映し、短時間で生産し低価格な商品を扱う。
(アパレルもファストファッショの要素も持っているが、イコールではない)



アパレルでも、環境に負荷を与えるのも事実



協会としても、課題を捉える必要がある

■取り組むべきだが、どうしよう？

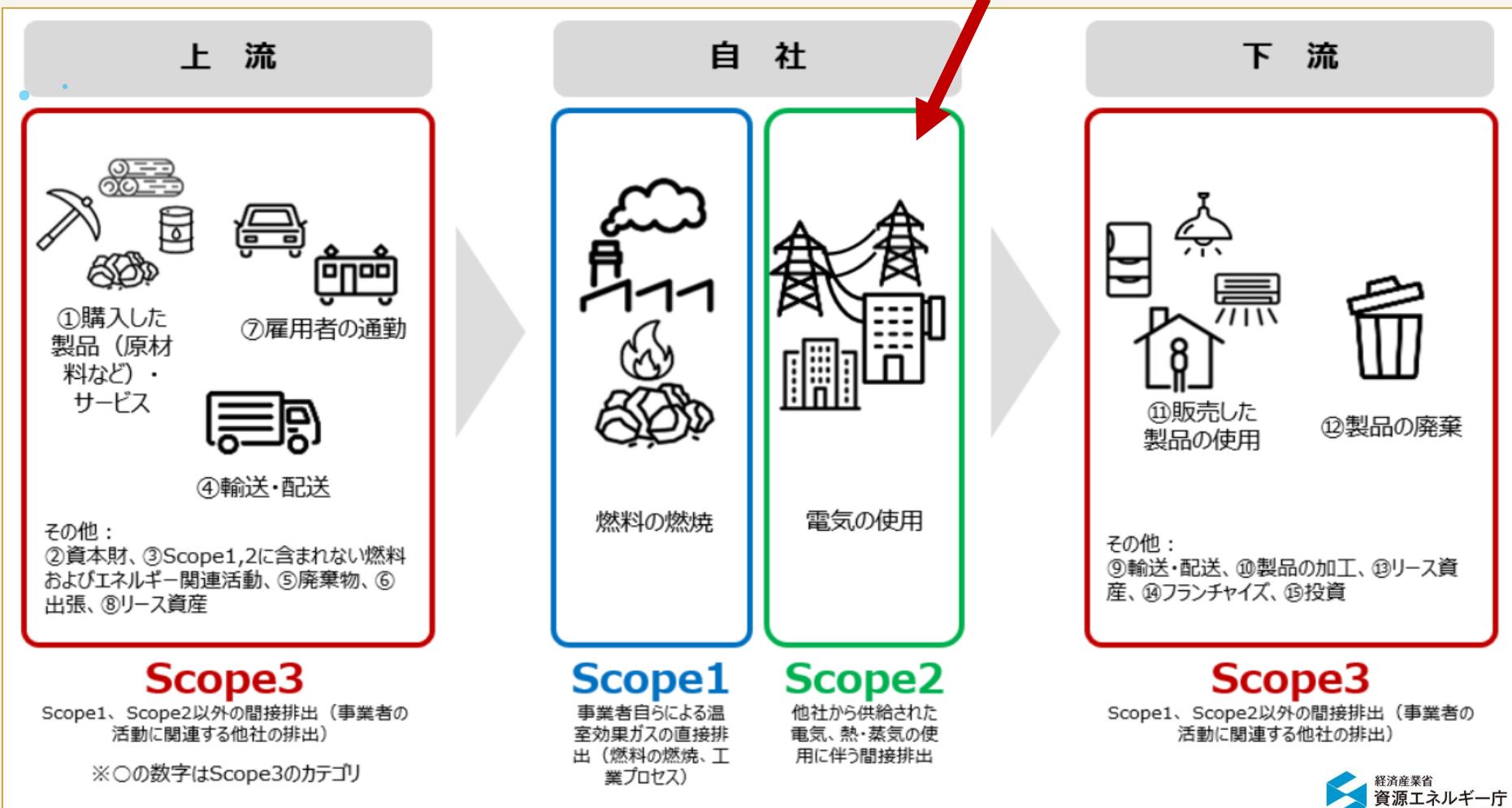
広大なサプライチェーンで、
直接的なモノつくり形態は少ない

+

●素材は、
綿は、植物
毛は、動物
ポリエステルは、化学
と多種多様

-
- ・事業所の環境対応でよいかな？
 - ・生産背景はしないでよい？

ここは？

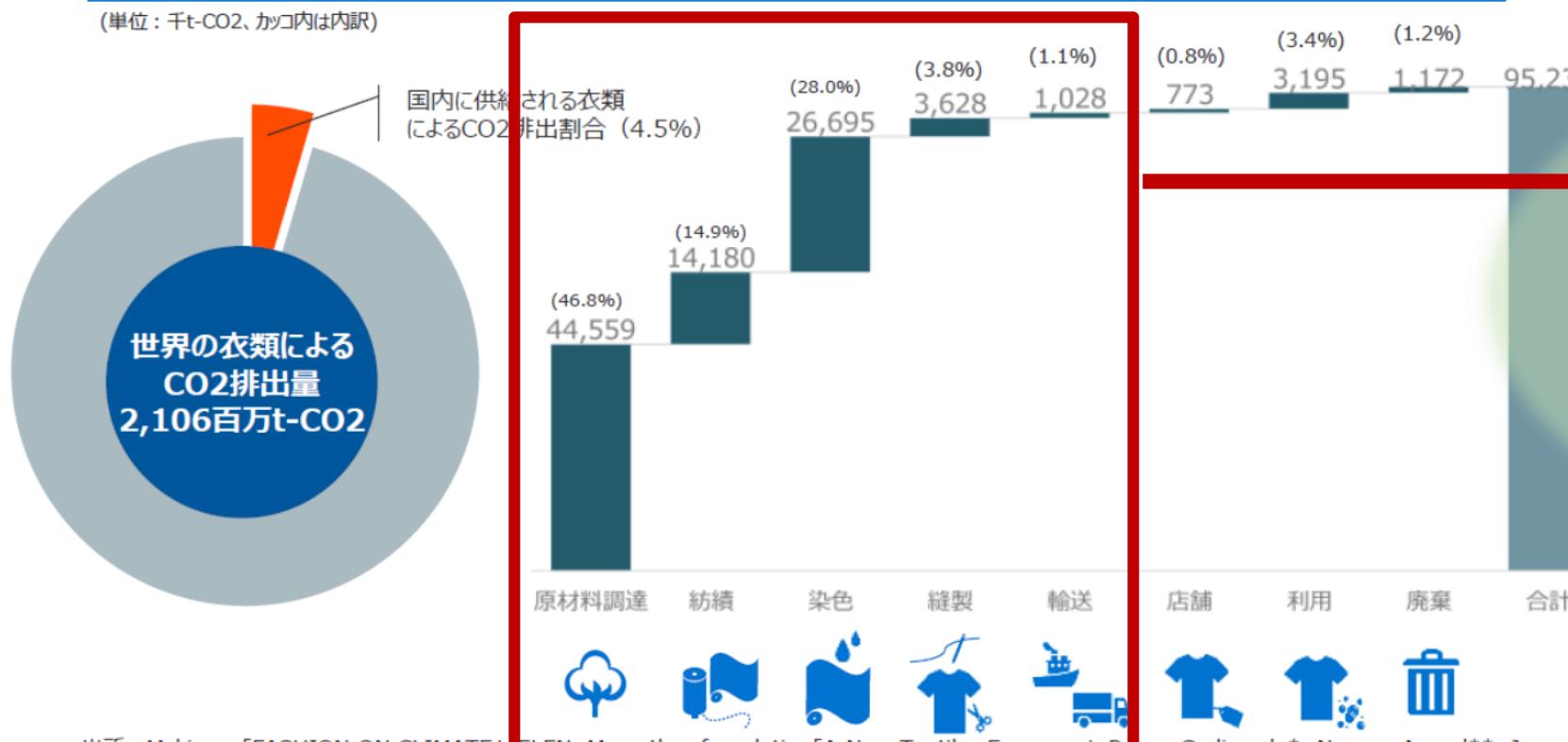


■求められていることは

国内に供給される衣類のライフサイクルのCO2排出量

- 国内に供給されている衣類から排出されるCO2（原材料調達から廃棄まで）は95百万トンと推計。
- 世界のファッション産業から排出されるCO2の4.5%に相当、うち輸送までの上流段階で全体の94.6%を占める
- 服1着生産するにあたり排出されるCO2は25.5キロと推計

国内に供給されている衣類のライフサイクルにわたるCO2排出量



衣料のLCAで、
モノづくりの環境負荷が殆ど

モノづくり全部の背景では
(Scope3:上流)

■そこで、どうするか！ 進めて来たこと

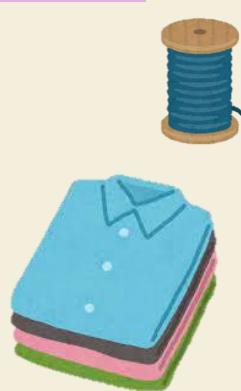
「令和6年度環境省 VC全体での脱炭素化推進モデル事業」へ アパレル関係の3団体で立候補

・JAFIC 一般財団法人日本アパレル・ファッショング産業協会

・KanFA 共同組合関西ファッショング連合

・JSFA ジャパンサステナブルファッショングライアンス

→アパレル(製品)、原料(生地)など、
サプライチェーン上の多様な企業が会員である繊維、アパレル業界の3団体



●ファッショング産業の脱炭素化に向けた 温室効果ガス排出量算定ガイドラインを作成

サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量の
算定方法基本ガイドラインに関する
業種別解説（ファッショング産業）②

温室効果ガス削減の考え方と概算方法

2025年2月

一般社団法人 日本アパレル・ファッショング産業協会

ジャパンサステナブルファッショングライアンス

協同組合 関西ファッショング連合

●各会員企業の中から、
以下の企業で検討をし
本年度のガイドラインを作成した

＜検討企業＞

株式会社赤ちゃん本舗

旭化成アドバンス株式会社

株式会社ECOMMIT

株式会社オンワードホールディングス

株式会社ゴールドワイン

ザ・ウールマーク・カンパニー

株式会社三陽商会

株式会社シップス

スタイルムラン大阪株式会社

株式会社TSIホールディングス

東京吉岡株式会社

一般財団法人日本繊維製品品質技術センター（QTEC）

株式会社フジックス

三起商行株式会社

モリリン株式会社

株式会社ヤギ

株式会社ユナイテッドアローズ

株式会社ワールド

株式会社ワールドプロダクションパートナーズ

YKK株式会社

五十音順

アパ産、始め、各団体からHPから、
資料、説明動画のダウンロードが出来ます

■ガイドラインに作成に着手

●環境負荷産業と業界が名指しされているが。。。.

- 「そもそも、何する？する必要があるの？」.
- 「しようと思っても、何をすればよいの？」

→最終的には「しよう！」となった

●算定方法はあるが。。。.

基本式「活動量×排出量原単位」

サプライチェーン排出量の算定は、Scope1,2排出量とScope3排出量を合計して算定します。

(サプライチェーン排出量=Scope1排出量+Scope2排出量+Scope3排出量)

本書ではScope3の算定方法を説明しますので、Scope1,2の算定方法については、環境省WEBサイト「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度 (<http://ghg-santeikohyo.env.go.jp/>)」をご参考ください。

Scope3は基本式を
15カテゴリごとに計算し
合計して算定します。

基本ガイドライン：第1部 5.4 参照



排出原単位

のCO₂排出量。例えば、電気
料金のCO₂排出量、貨物の輸送
量あたりのCO₂排出量、廃棄物の
処理量あたりのCO₂排出量等が該当しま
す。

第2章

サプライチェーン排出量の算定方
法

基本的な算定手順

活動量

業者の活動の規模
輸送量、廃棄物の処理量、取引金額などが該当します。
内での各種データや、文献
データ、業界平均データ、製品
設計値等から収集します。

活動量の例

貨物の輸送量
廃棄物の処理量

GHG算定 = 活動量 × 排出原単位

●基本は示されている

こんな声も
ありました

どうしたらよいの？

なぞだらけ！！

どんなもの？
どうやって使うの？
これで良いの？



●実際に手を動かすとなると、動かない

では、こうしよう！

●アパレル企業が普段の業務で イメージできること 業界が進めやすい方法

など

●使い慣れた数字、単位を使うこと 業界として推進するのでは。。。。

■着目したこと

●どんな内容、どこまでの粒度、精度にすべきか？ かなりの議論をしました □×△※...

そこで、すべきことは、緻密な算定でなく、
GHGの削減をすることではないか！

●ココに着目

・製品1着を作るに、
→原料(生地)の段階が環境負荷の殆ど

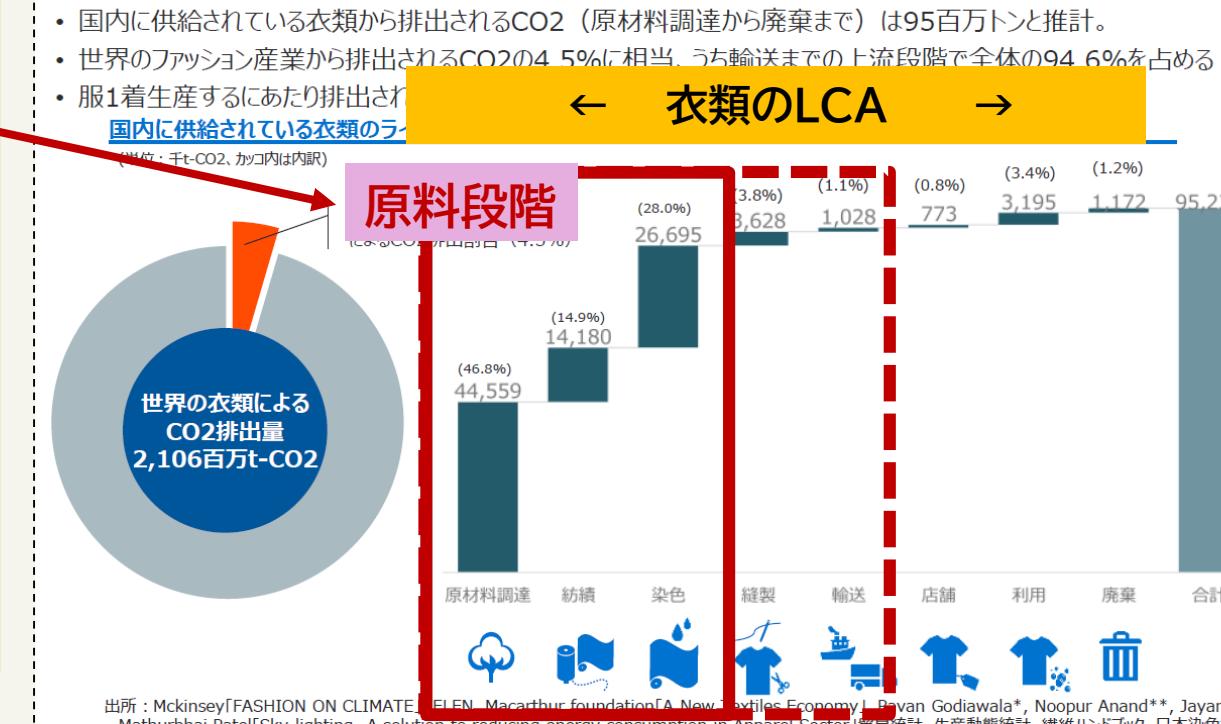
・原料段階をターゲット
本解説の範囲(ターゲット)をアパレル製造部分(Scope3:上流)とした

・粒度は、アパレルが削減施策が、できる粒度で留めた
→原料(生地)を選ぶことは出来る

製品買いでも、
使用されている原料を見極め購入ができるのでは



国内に供給される衣類のライフサイクルのCO2排出量

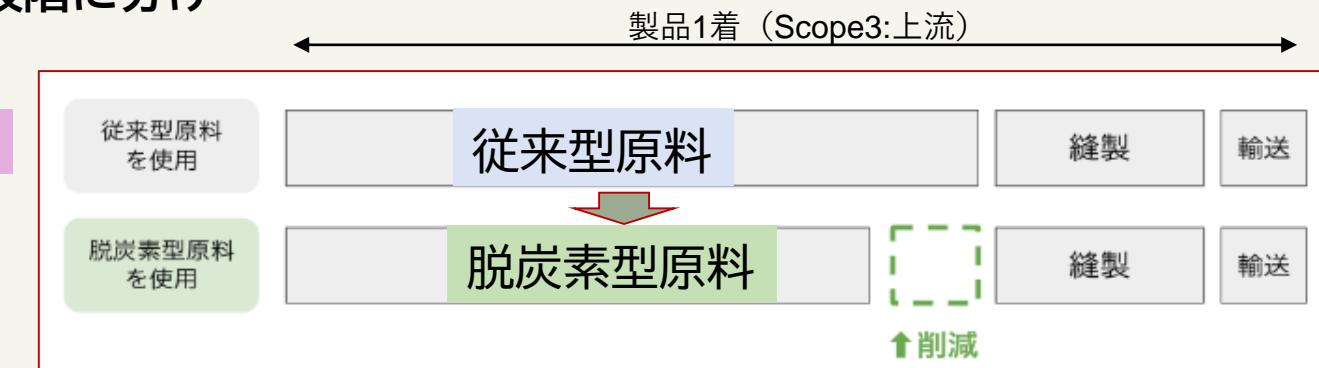


■具体的には、

粒度を「製品1着」の「原料、縫製、輸送」の3段階に分け

「原料を脱炭素型原料に置き換える」

このイメージ→



「製品単位で行うことで、着数での可視化ができる」

→業務で使用する単位で、企画、生産など組織全体で進めることが出来る

細かいことは分からなくても、
各自が何をすればよいか明確にできる

「アイテム単位 ●●着」「削減」
のキーワードをいれ進めることにした

注1) 原料・・・本解説では、縫製工場に入る前の生地、または編立工場に入る前の糸と定義します。

注2) 従来型原料・・・本解説では、原材料^{注4)}が「従来型」で作られた原料と定義します。

注3) 脱炭素型原料・・・本解説では、原材料が「脱炭素型」で作られた原料と定義します。

注4) 原材料・・・本解説では、原料を製造するために使用する材料と定義します。

■こんなイメージ

手順①：アイテムごとのGHG排出量を設定

①1着あたりの
GHG排出量を設定

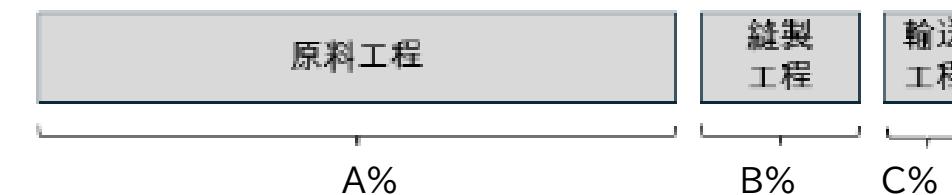
Tシャツ（軽衣料）生産



手順②：製品生産段階を3工程（原料、縫製、輸送）のGHG排出量比率に分解

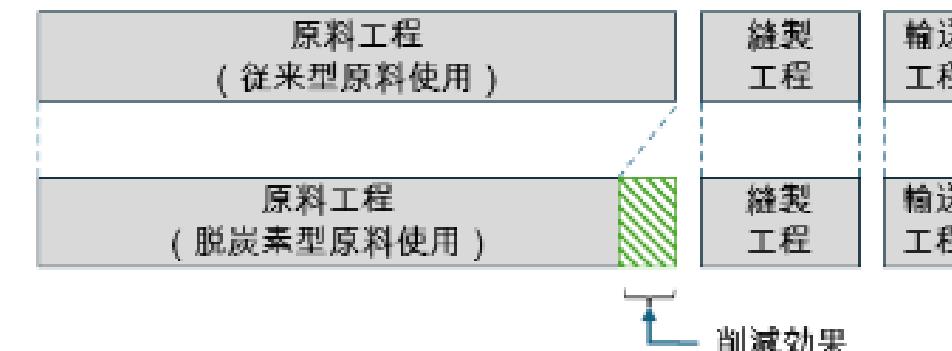
②3工程に分解

アパレルができる施策の粒度



手順③：原料を従来型原料から脱炭素型原料に置き換えた場合のGHG排出量を算定

③原料（工程）を
脱炭素型素材へ置換え
削減の可視化



上記、手順①～③の中に、
パターンを設け、サプライヤーの情報がなくても手が止まらない様にした

■算定方法:手順①

これを算定→

手順①：アイテムごとのGHG排出量を設定

Tシャツ（軽衣料）生産

<パターンA>

アイテムを分けずにひとくくりとする場合

●1着あたりとし、アイテム区分はしない
こちらからトライができ、進め方のイメージをつくることができる。

GHG排出量（本解説の設定値）¹

25.5 kg-CO₂e / 着

<パターンB>

アイテムを軽衣料・中衣料・重衣料の3区分に分類する場合

●使用する原料の面積で、GHG排出量の傾斜付けれます

GHG排出量（本解説の設定値）²

- ・軽衣料：3.4 kg-CO₂e / 着
- ・中衣料：8.8 kg-CO₂e / 着
- ・重衣料：64.3 kg-CO₂e / 着

パターンABは、手が止まらず進められるのでは

●ポイント：衣料を3区分に

・重衣料：ジャケットなど
表生地があり
裏生地付き



・中衣料：ブラウスなど
一重で芯地がある。



・軽衣料：Tシャツなどの
一重のもの



どんな衣料品も、この3つどれかを基本とし、
製品が出来ていると考えました。

●例えば、・裏付き、ジャケットとコートは、
GHG排出の観点では用尺が違うのみ



- ・裏付きワンピースも同様。。。
- ・子供服は、用尺が小さくなる。。

※用尺)
製品を作るに使用する
生地の長さ(面積)

■算定方法:手順①

<パターンC>

アイテムを細分化する場合（対象とするアイテムの形態に合わせて算定）

「パターンB」よりも細かくアイテム分類をしたい場合、軽・中・重衣料のGHG排出量に、対象とするアイテム用尺比率を掛け合わせて、対象アイテムのGHG排出量を算定することができます。

例えば、重衣料では芯地、裏地付きのコートにも置き換えることができるようになります。基本用尺を対象とするコートの用尺に変え、用尺係数を掛け対象アイテムのGHG排出量を算定できます。同じ考え方で必要に応じたアイテム体系に分解して進めてください。

<表1：本解説における軽・中・重衣料の想定アイテムと基本用尺^{注5)}>

区分	製品想定構成	想定アイテム	GHG排出量 (kg-CO ₂ e/着)	基本用尺 ³ (m ² /着)
軽衣料	ニット	カットソー	3.4	0.9
中衣料	布帛一重、芯地付き	ブラウス	8.8	1.5
重衣料	布帛、芯地付き、裏地付き	ジャケット	64.3	2.4

注5) 用尺・・・用尺とは一般的に衣料品などの仕立てに必要な布の長さを指しますが、本解説では、衣料品などの仕立てに必要な布の面積と定義します。

<パターンD>

1次データ（生産段階で使用したエネルギー量など）を使用する場合

本解説では、対象アイテムのGHG排出量について1次データの収集が困難なことを想定して「パターンA～C」を設定していますが、自社やサプライヤーが直接測定した1次データを収集出来る場合は、そのデータを基に算出してください。

(前ページ) ポイントに示した考え方から

分かってきた、自分の会社のアイテムに近づけよう！

→基本用尺(原料使用量)を調整し

●各社で使用するアイテム体系分類に、細分化できる。

アイテムごとや、子供服、成人服などの形態に合わせ

アイテムごとのGHG排出量に分解できる
(排出量の傾斜化ができる)

●明解な数字が存在しないため

環境省、経産省などの公開しているものの
データソースなどを確認し、作成した
※かなり、議論いたしました

●サプライヤーと情報共有し、

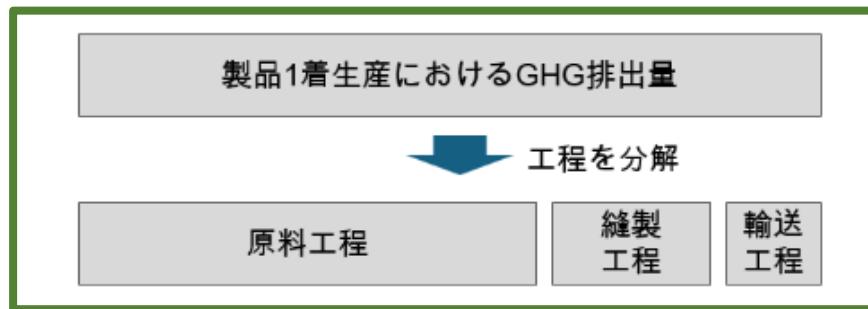
アイテムごと、(着)のGHGを算出する

■算定方法:手順②

製品生産段階3工程のGHG排出比率に分解

■手順②: 製品生産段階のGHG排出量を3工程(原料・縫製・輸送) のGHG排出量比率に分解^{※補足2}

「手順①」で設定したアイテムごとに、生産段階を原料・縫製・輸送の3工程に区分します。下記のパターンA、またはBのいずれかを用いて、各工程のGHG排出量比率を設定してください。



※アパレルができる施策の粒度しました。

<パターンA>

本解説の設定値を使用する場合

本解説で定めた以下のGHG排出量構成比を使用してください。

GHG排出量構成比(本解説の設定値)⁴

原料工程: 80%、縫製工程: 19%、輸送工程: 1%

<パターンB>

1次データ(生産段階で使用したエネルギー量など)を使用する場合

本解説では、GHG排出量構成比について1次データの収集が困難なことを想定して「パターンA」を設定していますが、自社やサプライヤーが直接測定した1次データを収集出来る場合は、そのデータをもとに算出してください。

●アイテム、使用の原料により、分類しない
→こちらからトライし、本解説のイメージを固めてみてください

●明解な数字が存在しないため
環境省、経産省などや、各社の情報を確認し作成した
※かなり、議論いたしました

●サプライヤーと情報共有し、アイテムごとの
排出割合を設定する

■算定方法:手順③

従来型原料から脱炭素型原料に置き換えた場合の削減割合を設定

■手順③: 原料を従来型原料から脱炭素型原料に置き換えた場合のGHG排出量を算定^{※補足3}

「手順②」で設定した各アイテムの「原料工程のGHG排出量」に脱炭素型原料使用時のGHG削減割合を掛けたGHG排出量削減効果を算定します。

脱炭素型原料使用時のGHG排出量削減係数はパターンA、またはBのいずれかを用いてください。

<パターンA>

本解説の設定値を使用する場合

「手順②」で求めた原料工程（従来型原料使用）のGHG排出量に0.9を掛けた値に、縫製工程、輸送工程のGHG排出量を加えて脱炭素型原料使用時の排出量を算定します。

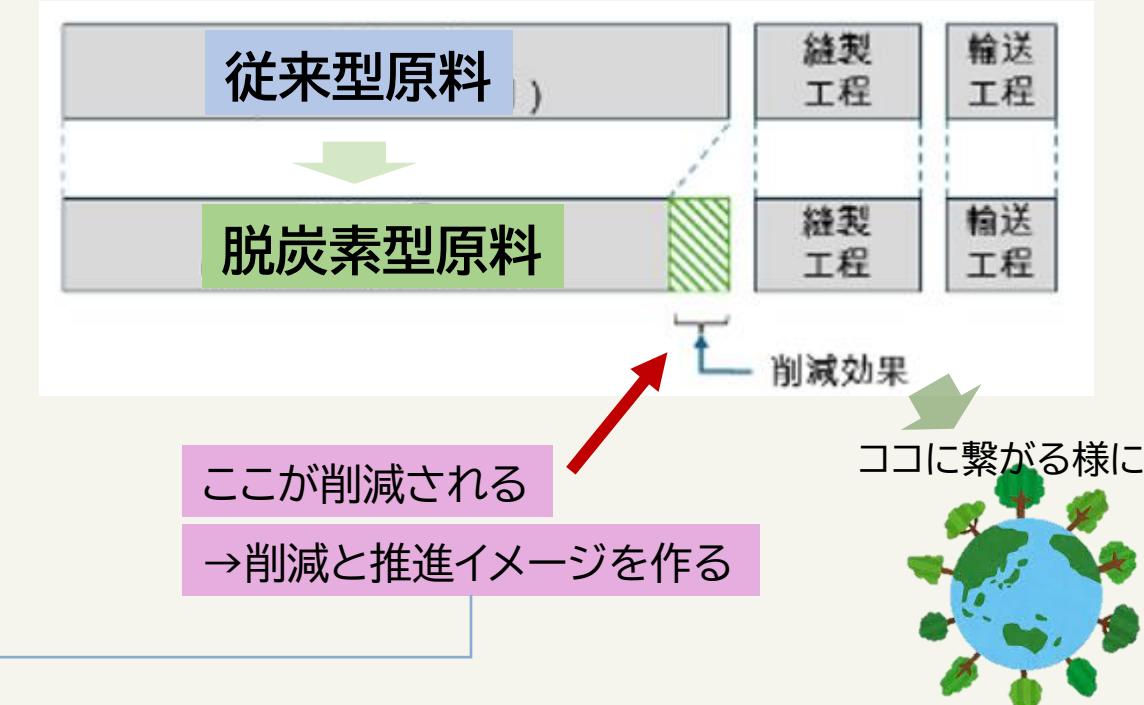
GHG排出量削減係数（本解説の設定値）⁵

0.9

<パターンB>

1次データ（生産段階で使用したエネルギー量など）を使用する場合

本解説では、原料を従来型原料から脱炭素型原料に置き換えた場合のGHG排出量削減率については、1次データの収集が困難なことを想定して「パターンA」を設定していますが、自社やサプライヤーが直接測定した1次データを収集できる場合は、そのデータをもとに算出してください。



●アイテム、使用の原料により、分類しない
→こちらからトライし、本解説のイメージを固めてみてください

●明解な数字が存在しないため
論文や各社の情報から作成した
※かなり、議論いたしました

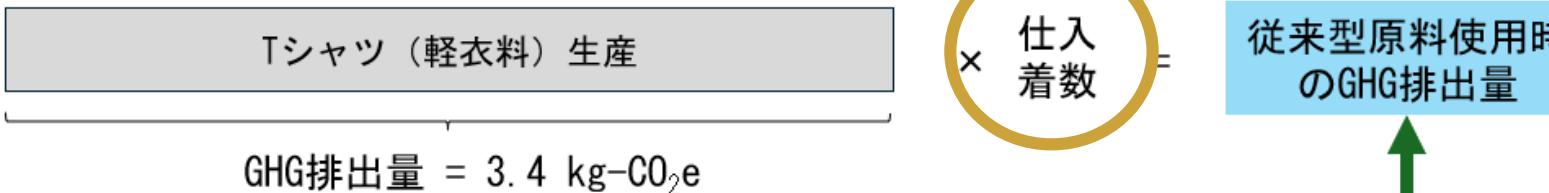
●サプライヤーと情報共有し、アイテムごとの
排出割合を設定する

■算定と削減効果の可視化

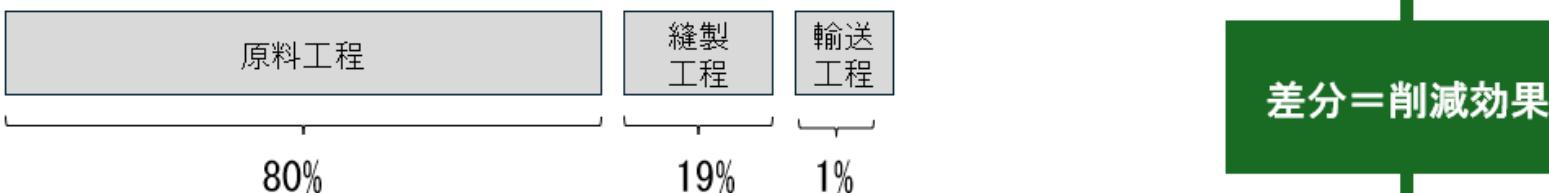
手順①～③を行い、仕入着数を掛けて、削減効果を可視化したイメージ

●仕入着数を掛ける(乗じる)

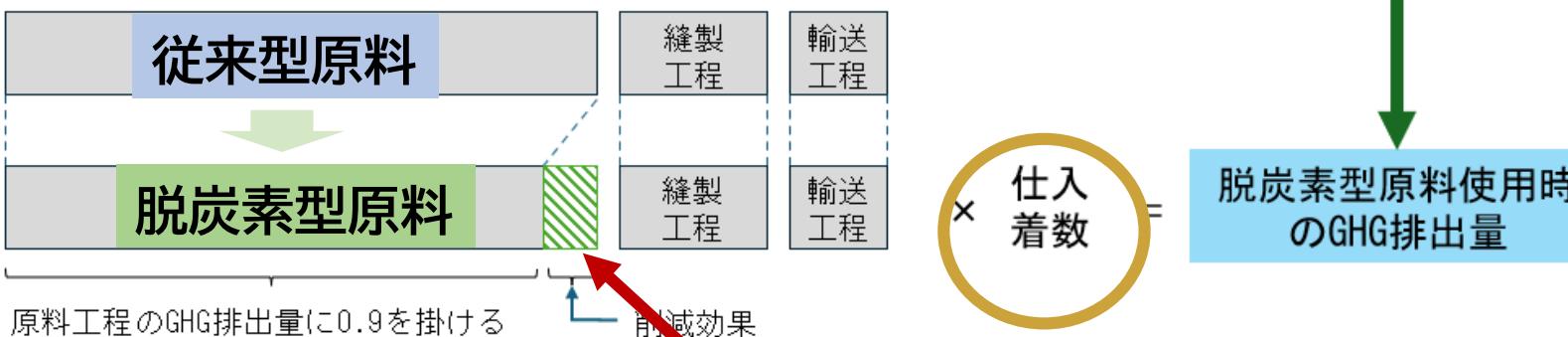
手順①：アイテムごとのGHG排出量を設定



手順②：製品生産段階を3工程（原料、縫製、輸送）のGHG排出量比率に分解

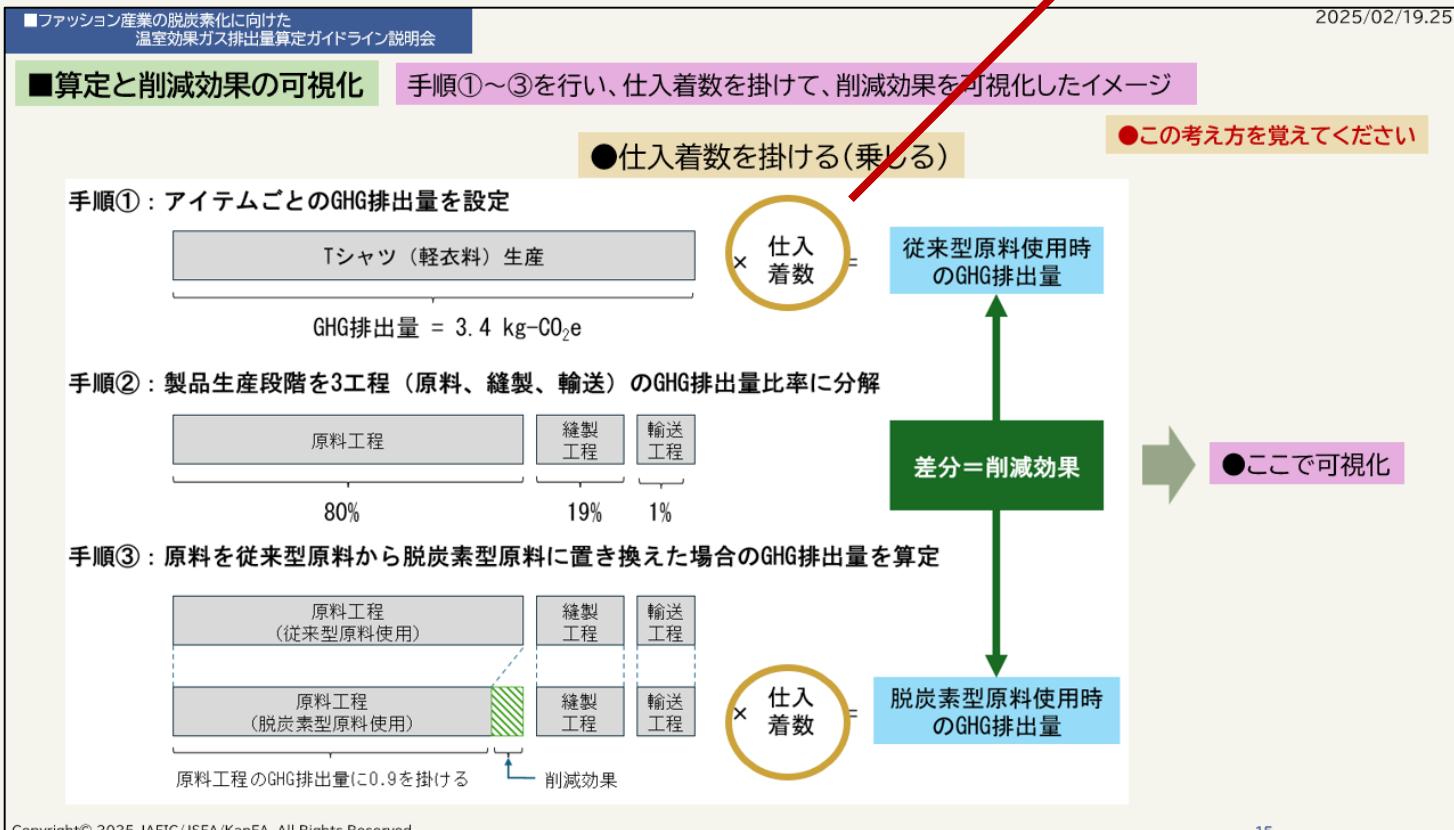


手順③：原料を従来型原料から脱炭素型原料に置き換えた場合のGHG排出量を算定



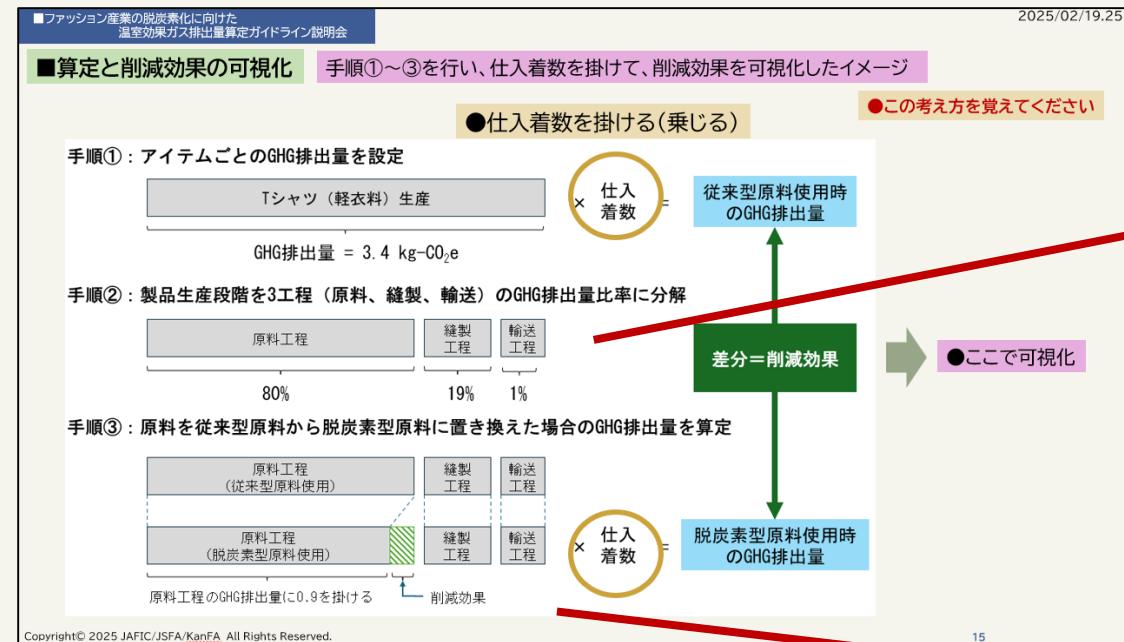
参考)算定事例を掲載いたしました

- 1) アイテムごとのGHG排出量を選択する(手順①)
「パターンB」の軽衣料のGHG排出量(3.4kg-CO₂e/着)を使用。←
- 2) 従来型原料使用時のGHG排出量を算定する←
アイテムごとのGHG排出量に仕入着数を掛けて、従来型原料使用時のGHG排出量を算出。
 - 従来型原料使用時のGHG排出量
 $= 3.4 \text{ (軽衣料のGHG排出量)} \times 1,000 \text{ (仕入着数)} = 3,400 \text{ kg-CO}_2\text{e}$ ←



数字を入れた例を記載
進める時にイメージを付けやすくした

参考)算定事例を掲載いたしました(続き)



- 3) 原料、縫製、輸送の3工程のGHG排出量比率を設定する（手順②） ←
各工程のGHG排出量比率が不明なため、本解説設定値（パターンA）を使用。 ←
・ 原料、縫製、輸送の3工程のGHG排出量比率 ←
= 原料工程：80%、縫製工程：19%、輸送工程：1% ←
- 4) 原料、縫製、輸送の各工程に1)で設定したアイテムごとのGHG排出量を分割する ←
・ 原料工程 = 3.4（軽衣料のGHG排出量）× 0.8（本解説設定値）= 2.72 kg-CO₂e ←
・ 縫製工程 = 3.4（軽衣料のGHG排出量）× 0.19（本解説設定値）= 0.646 kg-CO₂e ←
・ 輸送工程 = 3.4（軽衣料のGHG排出量）× 0.01（本解説設定値）= 0.034 kg-CO₂e ←
- 5) 脱炭素型原料使用時のGHG排出量削減割合を設定する（手順③） ←
製品の本体生地に脱炭素型原料を使用しているが、1次データは取得していないため、本解説設定値の0.9（パターンA）を選択。 ←
- 6) 脱炭素型原料使用時のGHG排出量を算定する ←
1)で算定した原料工程のGHG排出量に5)で設定した脱炭素型原料使用時のGHG排出量削減割合を掛けて、脱炭素型原料使用時の原料工程のGHG排出量を算定する。 ←
・ 脱炭素型原料使用時の原料工程 = 2.72 × 0.9（本解説設定値）= 2.448 kg-CO₂e ←
ここに、縫製工程、輸送工程のGHG排出量を加算する ←
・ 原料を従来型原料から脱炭素型原料に置き換えた場合のGHG排出量 ←
= 2.448 + 0.646 + 0.034 = 3.128 kg-CO₂e ←
- 7) 6)に仕入着数を掛けて脱炭素型原料使用時のGHG排出量を算定する ←
・ 脱炭素型原料使用時のGHG排出量 = 3.128 × 1,000（仕入着数）= 3,128 kg-CO₂e ←
- 8) 2)と7)を比較してGHG排出量の削減量、削減率を算定する ←
・ GHG排出削減量 = 3,400 - 3,128 = 272 kg-CO₂e ←
・ GHG排出量削減率 = 272 ÷ 3,400 × 100 = 8.0 % ←

■脱炭素化推進活動の例

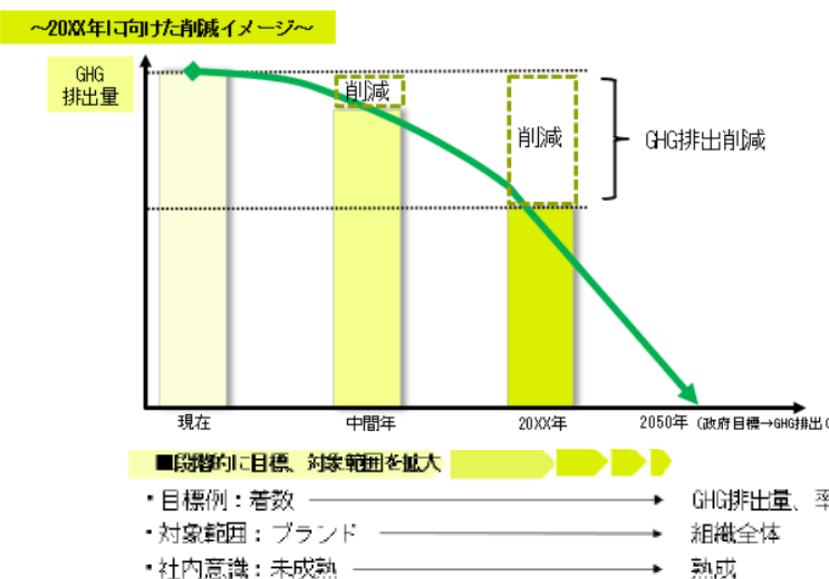
第3章：脱炭素化推進活動の例

この章では、本解説の算定方法を活用した、脱炭素化推進活動の例を紹介します。

算定を実施して GHG 排出量を可視化するだけでは、脱炭素化を推進することはできません。よって、GHG 排出量の算定に留まらず GHG 削減の目標を決め、そのためのアクションとして脱炭素型原料などを使用し、その効果を可視化し脱炭素化推進活動を着実に進めて行く必要があります。

まずは、「20XX 年までに GHG 排出量を XX% 削減する」という中長期的な目標を定めます。次に、削減目標達成のための施策として「脱炭素型原料を使用した製品の仕入割合を X% 以上にする」などのシンプルな年次目標を設定し、年次目標を段階的に高めていくという方法で取り組みを進めていきます。そして、脱炭素型原料を使用することで削減できた GHG 排出量を本解説の第 2 章に沿って算出します。ここでは本解説の活用が可能な脱炭素型原料使用による施策を記載しました。その他の施策も合わせて中長期目標達成に向けて脱炭素化推進活動を進めていただければと思います。

■ 脱炭素化推進目標に向けた削減イメージ（例）



組織単位での推進に、イメージが出来る様に。。。

●何が目的？

算定ではなく、削減です（※削減には、可視化は必要「算定」が必要）
実際に各企業で削減施策を決め、推進する必要があります

ここまで、算定方法を述べました

算定方法と原料を脱炭素化素材に切り替える施策で初めて見ませんか

●目標設定し推進活動開始

20XX年までにGHGを●●%削減する目標を決めます

ブランドのMD,生産などに、何着を脱炭素型素材に切替る目標を作り、手順①のパターンでしました様に、アイテムごとで仕入数をカウントし進めて下さい

●こんなかたちで広がれば

アパレルが、脱炭素型素材に切替えを推進することで、川上企業でも、その素材を使う潮流が出来れば、脱炭素素材開発などが進み、業界が相乗的にGHG削減に進むことが出来ます

■付録)各会社の推進事例

1) 本解説作成「X社」

Step1「概算」の例【X社】

①算定範囲・粒度

対象範囲

全社

算出事業範囲

全社

仕入れる全ての商品

商品範囲

アパレル製品

卸販製品

Step1 概算 Step2 排出量の多い部分を読み下す Step3 さらに深掘

Step1 概算 Step2 アイテム毎に分類×削減 Next Step

Step2「アイテム毎の排出量算出と点数での削減施策」の例【三陽商会】

Step1 概算 Step2 アイテム毎に分類×削減 Next Step

Step1「概算」、Step2「削減施策」、Next Step「自社の排出係数を使ったアイテムごとの排出量計算と全体のGHG排出の計算へ」Stepを進める例【三陽商会】

①算定範囲・粒度は何か

対象範囲

全グループ会社 (連結)

粒度

・アイテム単位

Step1 概算 Step2 アイテム毎に分類×削減 Next Step

Step1,2「仕入数量・重量・組成に関するデータを活用して算出」、 Next Step「低炭素素材の切替を促進する」【TSIホールディングス】

Step1 概算 Step2 アイテム毎に分類×削減 Next Step

①算定範囲・粒度は何か

対象範囲

三起商行単体

粒度

・仕入れ金額

Step1 概算 Step2 アイテム毎に分類×削減 Next Step

Step1「GHG算出」、Step2「アイテム毎の原単位の可視化とサステナブル素材比率での目標管理」 Step3「組成割合を反映させた原単位の可視化と、排出量削減の目標管理」Stepを踏み進める例【ワールド】

Step1 概算 Step2 アイテムごとの削減 Step3 「Step 2+組成要素」の削減

①算定範囲・粒度は何か

対象範囲

全グループ会社

粒度

・各会社

・ブランド単位

Step1 概算 Step2 アイテムごとの削減 Step3 「Step 2+組成要素」の削減

②どのように算定しているか

対象範囲

全グループ会社

粒度

・会社単位

・ブランド単位

Step1 概算 Step2 アイテムごとの削減 Step3 「Step 2+組成要素」の削減

③活動粒度

アイテムごと (9分類) の

・仕入金額

・仕入枚数

Step1 概算 Step2 アイテムごとの削減 Step3 「Step 2+組成要素」の削減

④採用した排出係数

環境省DB (データベース)

・152101 織物製衣服 152102 ニット製衣服

・環境省(日本総研調査)等の資料

・25.5Kg-CO2eq/服1着あたり などの複数のデータベースで比較

Step1 概算 Step2 アイテムごとの削減 Step3 「Step 2+組成要素」の削減

⑤計算把握

IDEA2.3の原単位を使用

・アイテムごとの原単位を設定

・原料、縫製、輸送と段階に分解し算出

・原料: アイテムごとに平均用尺、目付の面積、重さ等を設定

・縫製: 使用する原単位

・輸送: 自社工場の電気、ガス、重油などエネルギー使用量

から1着当たりの活動量(エネルギー量)を算出

・輸送: 主力産地からの距離 (km)

※IDEAに原単位 (2次データ) があるものは採用。

ないものは、1次データで算出

⑥IDEA2.3の原単位を使用

・アイテムごとの原単位を設定

・原料、縫製、輸送と段階に分解し算出

・原料段階に、組成要素を加え算出

■最後に

「何をしてよいのか、どこから手をつけて良いか」
わからなくても、手が止まらず着手できることをコンセプトの1つとしました

こんな思い、
願いです。

川下のアパレルが、出来ることは、真の素材開発でなく、脱炭素型素材に切替えを推進すること、
その素材を使う潮流が出来れば、川上企業での、脱炭素素材開発などが進み、
業界が相乗的にGHG削減に進むことが更に、出来ます

●脱炭素の上位概念に、サスティナブル(持続可能)があると思います。
地球、人、企業など、全てを持続可能とする新たな宿題が、今、出ています。
人の持続可能性は心が満ちていること、ファッショニは、心を満たすことが出来ます。

課された新たな宿題は、
ファッショニに制約を設けることではなく、技術やイノベーションで、
全てを持続可能にすることです。この新たな宿題を乗り越えていきたいです

一企業だけの頑張り(推進)ではなくJAFICとして取り組み、会員企業だけではなく、
3団体の企業、日本のアパレル企業がすべて取り組んでいただき、
更に、アパレルから繊維業界全体にムーブメントを起こしたいです

心を満たすファッショニ産業から、
環境優秀産業を目指し進めて行きたいです



ご清聴ありがとうございました

- ガイドライン、3団体の関係者はじめ、多く他の方と力を併せ、解説の作成が出来ました。ありがとうございました